

# 千葉県立船橋芝山高校の学校ビオトープ「芝山湿地」を題材に ESDプロジェクトを実施しました！

三井住友信託銀行では2012年より、環境専門のインターネット放送局グリーンTVジャパンと協働して次世代を担う子供たちに向けたESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクトに取り組んでいます。

第8弾ESDプロジェクトは、学校ビオトープ「芝山湿地」を題材に取り上げました。

## 学校ビオトープ「芝山湿地」とは

千葉県船橋市にある学校ビオトープ「芝山湿地」は、次世代への教育活動と里山環境の復元を目的に、1999年に里山生態園としての整備・保全活動がスタートしました。当初は単調だった生物層は現在、レッドデータブックに記載されている25種を含む740種が確認されています。長年の取り組みが評価され、公益財団法人日本生態系協会が主催する「全国学校ビオトープコンクール2007」では金賞を、2年後に開催された同コンクールでは特別賞「日本生態系協会会長賞」を受賞しており、多くの絶滅危惧種を含む生物の生息する質の高いビオトープであるという高い評価を受けています。

## 「エコロジカル・ネットワーク」構築の意義

### ～地域の自然と生態系のつながりを学ぶ～

2017年2月21日（火）、千葉県立船橋芝山高等学校の科学研究部生物班の生徒など約20人を対象に、ICT（情報通信技術）を活用した環境教育の授業が開催されました。科学研究部生物班では、芝山湿地の定期的な保全・整備活動、湿地に生息する生きものの飼育や調査に取り組んでいます。今回のESDプロジェクトは生徒たちのこうした活動をサポートしようと企画したものです。

学校敷地内にある「芝山湿地」



授業では、埼玉県生態系保護協会の堂本事務局長がファシリテーターとなり、県内の貴重な自然や生きものについて解説した映像教材などを用いながら、ビオトープ生態のみならず、周辺地域の自然環境を通じた「関東エコロジカル・ネットワーク」という大きな枠組みについても説明しました。

生徒たちは、普段自分たちが整備している湿地が河川を軸とした生態系ネットワークの形成に不可欠であること、地域の生態系保全に大きく貢献していることを学びました。

堂本様からは、「エコロジカル・ネットワークを構築することで、地域全体が自然豊かになる。ビオトープ活動を通じて様々な生きものが安心して暮らせる環境をつくろう」と次世代を担う生徒たちに呼び掛けました。生徒たちは、地域の生態系保全のためできること、活動を引き継ぐ大切さについて意見を発表しました。

三井住友信託銀行では今後も、地域の自然・生態系保全活動の活性化と環境教育の実践に努めてまいります。

